

Der Wind

(風)

湘南日独協会

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in Shonan

事務局: 〒251-0025 藤沢市鵠沼石上1-1-1

江ノ電第2ビル7F

TEL: 0466-26-3028 FAX: 0466-27-5091

E-mail: jdgs@jcom.home.ne.jp <http://jdgs-shonan.ciao.jp/>

湘南オクトーバーフェスト日程決定

恒例のオクトーバーフェストは10月9日(日)の開催が決まりました。詳細は次号でお知らせしますので、皆様の予定表に書き入れておいてください。

ケンペル・バーニー祭参加

箱根ケンペル・バーニー第30回記念祭(4月17日)

参加報告 副会長 三谷喜朗



当日は朝から予報通り、小田原駅を降りると何やら空模様がおかしかった。出迎え下さった関口、中村の両会員の案内

で参集した会員諸氏7名と共にバスで会場の箱根町旧道沿いにあるバーニーの残した石碑に向かった。箱根路上りのバスの道中は全山新緑の芽生え美しく、そしてその中に斑模様咲く満開の桜の景色が眺望され、ケンペル、バーニーの気持ちになった気分であった。

会場の石碑を見学後、天候の都合で会場が変更された箱根町町民会館に移動、祭典は定刻通りバーニーの石碑の拓本を前にして「ケンペルとバーニーを讀める会」川崎会長の祝辞挨拶から始まった。今回は第30回の記念開催のため参加者も多く代表各位の紹介に続いて、ケンペルの故郷であるドイツ・レムゴー市の「エンゲルベルト ケンペル協会」のキューベルト会長の来賓祝辞があり、湘南日独協会からは松野会長所用のため三谷がピンチヒッターとして祝辞を述べさせて頂く事になった。(次頁へ続く)

新入会員紹介

敬称略

小田 英子 川崎 英憲

会費納入のお願い: 3月会報に会費納入の振込用紙を同封しております。まだの方は急ぎお振り込み下さい

湘南日独協会の行事予定

■Schwatzerei am Stammtisch 第20回

テーマ:「個人情報保護」

Wie weit soll Persönlichesdaten geschützt werden?

日時 5月14日(土) 15:00~17:00

会場 藤沢商工会議所ミナパーク

会費 1,000円

■Singen wir zusammen! 歌で楽しむドイツ語第39回

テーマ: Wanderung

日時 5月22日(日) 15:00~16:30

会場 藤沢商工会議所ミナパーク

会費 1,000円

■5月例会 時局講演会

「ドイツの難民政策から日本は何を学ぶか」

講師 黒川 剛氏 (元オーストリア大使)

日時 5月29日(日) 14:00~16:00

会場 湘南アカデミア

会費 1,000円

講演会終了後懇親会(別料金)を予定しております

■Schwatzerei am Stammtisch 第21回

日時 6月28日(火) 15:00~17:00

会場 藤沢商工会議所ミナパーク

会費 1,000円

■Singen wir zusammen! 歌で楽しむドイツ語第40回

日時 6月19日(日) 15:00~16:30

会場 藤沢商工会議所ミナパーク

会費 1,000円

■6月例会 演奏会

琴とヴァイオリンのアンサンブル

一和と洋とのコラボレーションをお楽しみくださいー

演奏 尾崎彩氏(琴)と会員松野美智子氏(ヴァイオリン)

日時 6月26日(日) 14:30~16:30

会場 湘南アカデミア

会費 1,000円

演奏会終了後懇親会(別料金)を予定しております

(次頁に続く)

(ケンペル・パーニー祭参加続き)

簡単に内容を記すと

* ケンペルの”日本誌”により、当時欧州では絶滅樹木の一つであった銀杏の木が、日本では健在であることが伝えられた事。当協会と姉妹提携しているワイマール独日協会の Weimar 市のシンボルとなっている木は銀杏の木であり市内の随所でその苗木が売られていること。私事で恐縮ですが、ケンペルのケの字も知らない若い頃、会社の仕事の上で、日本随一のケンペル研究家今井正さんに長くドイツ語通訳としてお世話になったご縁等を織り交ぜさせて頂いた。*

祝辞の終了後、基調講演として自からもお茶の宗匠で居られる、讀える会の田代理事により「ケンペルに係るお茶の木の由来とその植物学的考察」があり、日本のお茶は国際的なこと、また古くから欧州でも売られていた等興味のある内容であった。

講演終了後立食パーティーに移り、参会者と歓談。テーブルには目の前に広がる芦ノ湖の獲れたてのわかさぎの天ぷら等が配膳されており大いに食欲がそそられた。賑わったパーティー終了後、下山のバスを待つ間、当協会だけで階下の部屋をお借りして2次会となり、関口さんの歴史話に花が咲いた。下山のバスの定刻となり、箱根特有の濃霧強風の雨の中をバス停まで急いだ。小田原に着くと、曇ってはいたが風もなく、駅前にて、関口、中村両氏を囲んでご苦労さん会一杯。そして解散となった。

ケンペル・パーニー祭を伝える

読売新聞の掲載記事 (2016年18年4月19日)



上：記念碑前での三谷副会長他 下：式典で挨拶するケンペル協会会長

行事予定続き

■Schwatzerei am Stammtisch 第22回

日時 7月17日(日) 15:00~17:00

会場 藤沢商工会議所ミナパーク

会費 1,000円

■Singen wir zusammen! 歌で楽しむドイツ語第41回

日時 7月24日(日) 15:00~16:30

会場 藤沢商工会議所ミナパーク

会費 1,000円

■7月例会 講演会

「シーボルトと大山椒魚」

講師 吉川リサ氏 (ニューヨーク州ホバート・アンド・ウィリアム・スミス大学史学科・アジア学科准教授)

日時 7月31日(日) 14:30~16:00

会場 湘南アカデミア

会費 1,000円

お知らせとお願い

今回より同封はがきを出状頂く際には52円の切手を貼って下さるようお願いいたします。メールでの連絡でも結構です。経費節減のために皆様のご協力をお願い申し上げます。

☆☆☆☆☆☆

2月例会 講演会

「ヨーロッパ有数の緑化地帯となった“旧東西ドイツ”国境地帯」 ～冷戦時代の跡地に垣間見る

自然を愛するドイツ人の心へ

会員 山口泰彦



相原講師と山口氏

2月28日(日)に開催された例会では、ドイツ政府観光局勤務のあと、舞台をヨーロッパに置いて現在、作家・写真家として活躍されている相原恭子氏にご講演いただきました。

私自身、1989年の夏に塙の中の旧東ドイツに行っていた以来、東西に分断されていたドイツ、そしてドイツ統一はずっと興味をもって追いかけていたテーマなので、今回の講演会はとても楽しみにしていました。

4年前には、旧東ベルリンに行き、ベルリンの壁崩壊の舞台となったボルンホルマー検問所や国民を監視していた国家保安省(シュタージ)の建物(今はシュタージ博物館)など、普段は観光客が行かない場所に行ったり、ベルリンの壁の跡をたどったりしました。(続く)

前ページよりの続き

講演では、相原氏が昨年、ドイツ統一 25 周年を記念して開催されたインターナショナルプレスツアーに日本を代表して参加され、約 1,400km に及ぶ旧東西ドイツの国境地帯に広がるグリーンベルトの現在の様子などを、たくさんのスライドをご用意されてお話をいただきました。

かつての国境地帯の東ドイツ側は、国民が逃亡しないよう、国境のはるか手前に塀や見張塔を設置して、その先にはブナ林や荒野が広がり、さらに国境にも塀があつて、塀と塀の間は、立ち入りが禁止されているので「誰も居ない地域(Niemandland)」と呼ばれていました。

旧西ドイツのヘッセン州と旧東ドイツのチューリンゲン州の国境にあった検問所「ポイント・アルファ(Point Alpha)」の周囲にもそういったグリーンベルトが手つかずのまま残されていたので、空気も良く、小鳥のさえずりも聞こえ、今では散策路も整備されていて、社会見学に来た子供たちが自然を身近に感じるができる場になっています。

土地があるから開発しようというのではなく、自然を大切にしようという発想や、一方で、記念館では東西分断の悲劇の歴史を紹介し、負の遺産を忘れずにとどめるのはいかにもドイツ人らしいとお話されていました。

過ちを繰り返さないようにと、警告の意味を込めた記念碑(Mahnmal)はドイツでよく見かけますが、ここでも旧東側の国境地帯には西側に逃亡しようとして犠牲になった人たちのシラカバの木で作った十字架(Birkenkreuz)が残されているとのことです。

他にも、丘の上には中世の美しい古城ハンシュタイン城がそびえる美しい村で、今ではサイクリングロードや遊歩道が整備されているボルンハーゲンが、目の前が西ドイツとの国境だったため、かつて住民は秘密警察シュタージの監視下に置かれ、地元住民以外は立ち入りができなかったこと、村内を国境が走っていたため「小さいベルリン」と呼ばれ、兄弟の家が東西に分断され、行き来することもできなかったメドラロイトのことなどもご紹介いただきました。



講師を囲んでの懇親会

そして、最後に紹介されたのがポツダムのお話。

ポツダムは、第二次世界大戦の終わりに米、英、ソ3国の首脳会談が行われたので有名ですが、ポツダムの市民はこの会談で原子爆弾の使用が決定されたことが心に重くのしかかっている、市内には「ヒロシマ・ナガサキ通り」があり、「ヒロシマ」と名付けられたバスが市内を走り、車内には原爆で犠牲になられた方の人数などが書かれたボードを掲示したりして、過去の過ちを忘れないようにしているとおうかがいしました。

どれも興味深いお話ばかりで、あっという間の一時半でした。私もいつかは旧東西ドイツの国境地帯を訪ねてみたいと思います。

最後になりましたが、相原様、このたびはお忙しい中、ご講演をいただきどうもありがとうございました

□ □ □ □ □ □ □

3月例会 講演会

日本料理の心と技術 西洋料理と何が違うのか

講師 近藤元人氏 創作和料理「近藤」店主

(有) 彩遊館代表取締役

会員 鈴木 章子



鈴木章子氏

昨年、日本の和食がユネスコ無形文化遺産に登録されたことはまだ記憶に新しい事です。「和食」を日常の食としている私たちにとって、登録されるということがどういう意味を持つものなのか、戸惑いを感じる方も多いと思います。今回、鎌倉で創作和料理の店を運営されている近藤元人氏の講演を聞き、改めて登録の意味と和食文化の特性を知ることが出来ました。ユネスコへの登録の提案者には、和食文化の特徴の説明から始まっています。

その第一は、主食である米が国外から伝来の食物であること。そして、米と同じく麦類、雑穀類、豆、芋、野菜の類まで長い年月を経て日本へ伝来し、日本の風土に合わせて品質改良を重ね、現在では豊富な農産物が生産されていること。

第二の特長は、豊富な海の恵みと水の恵みです。暖流、寒流の影響で、多様な魚介類が獲れる自然があること。また軟水と呼ばれる良質な水に恵まれ、水に係わる食文化の発展があったこと。(続く)

例えば、中国伝来の豆腐も日本の軟水の利用で現在のような柔らかな豆腐が作られています。日本酒の製造、茶の湯文化の発達、刺身という生魚を食する文化等、水の恩恵によって成立した食文化がある、ということです。

第三の和食の特徴は、絶えず海外の文化を受け入れ、知識と知恵を磨き、技術を発達させて日本独自の食文化を作り上げたこと。この文化の受容についていえば、私たちの祖先は文字をはじめ政治制度に至るまで、文物を大陸から取り入れ日本流に作り上げた歴史を見ても、食文化も例外ではありえないということでしょう



また私達は、常に飢餓や災害に備えて備蓄の必要があり、食料を無駄にしない調理や加工の工夫もなされてきました。こうした持続可能な資源の利用と開発が重要な課題であり、自然を破壊することなく、むしろ自然を尊重する精神は和食文化の中にある、と提案書に特筆されているそうです。

自然の尊重は他国の文化にもみられることです。日本人は山の樹木にも滝にも、山の動物にもカミ（神）が宿っており、カミはあまねく存在し、その自然によって人は生かされている、という信仰にも似た意識を持って暮らしてきました。そこから様々な生活行事が生まれ、食と結びついて多くの行事食を生み出したということです。

文化遺産としての和食は、単に料理や食材にとどまらず、食の作法や食器の特異性にあります。西洋でも中国、韓国でも汁ものはスプーンを使いますが、日本の汁物はすすって頂きます。その為、熱さを感じさせない漆の食器が生まれました。汁をすする音、そばをすする音、茶の湯をのみきる音なども、食の場の点景として人々は楽しめます。また和食の食べ方の特長として「口中調味」といわれています。ご飯を一口食べたらずお菜を一口食べて、それぞれ自分の味を味わいながら食べることです。あらかじめ色々のお菜を混ぜ合わせて食べる、たとえばビビンパのような料理とは異なっています。

私たちが習慣的に行っている食べる作法も永い歴史の中で培われ受け継がれてきたものなのです。しかし近年になって食の世界も変わりつつあります。時代とともに色々な変化が起こることは仕方がないことかもしれませんが、しかしこうして和食の歴史を学んでみると失われてしまったもの、忘れ去られたことの中に、今一度見直し、考えてみる価値のあるものが埋もれているのです。和食を文化遺産とするのではなく、私たちの日常生活の中にもっと生かしていきたい。そして、それを次の世代に伝えなくてはならない。そんな切実な思いになりました。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

2016年度(今年4月～来年3月)予算について
会計年度が4月～3月に変更になり、4月24日の臨時総会で1～3月の決算報告と新年度予算案が承認されました。決算、予算の期間が異なりますので、以下に新年度予算のみ示します。

収入の部		支出の部	
前期繰越金	500,653	会報作成費	120,000
入会金	20,000	通信費	120,000
年会費	360,000	事務用品費	100,000
寄付金	0	事務局経費	200,000
		諸雑費	40,000
例会	1,000,000	例会	1,000,000
ドイツ語講座	2,000,000	ドイツ語講座	1,950,000
SWZ SAS	200,000	SWZ SAS	110,000
		合唱団育成	15,000
合計	4,080,653	合計	3,655,000
		差引剰余金	425,653

(注)運営費が決して潤沢ではありませんので、返信用の切手のご負担などご協力をお願いすることになりました。

編集後記

- エンゲルベルト・ケンペルを讃える会への参加、ドイツの現状、和食の世界とバラエティーに富んだ報告を掲載いたしました。感想などお聞かせ頂けると嬉しいです。今後も新しい企画が続きます。ご期待ください。
- 1月映画会「未成交響楽」、4月臨時総会後の「男はつらいよ」寅さんシリーズのウイーン編、西澤英男氏に解説を頂きました。西澤氏は湘南アカデミアで「ドイツ・オーストリア史」の講座を開いています。現在は名画がテーマです。詳細は「湘南アカデミア」へご照会ください。
- 別冊の翻訳を是非お読み下さい。講座への途中参加も可能です。お問い合わせください。(大久保)